

モーセ五書における「肉」の象徴的意味

平塚治樹

はじめに

「肉」は、旧新約聖書を通じて神学的に重要な概念である。新約聖書における「肉(σάρξ)」は特に、罪人の悪しき欲望との強い関連を示しており¹、御霊とは相容れないものとされている²。ただ、新約聖書の記者たちが前提とする「肉」という概念はそもそも、どこに由来するのであろうか。この点について、旧約聖書、殊にモーセ五書における同様の概念の研究が肝要であることを、本小論を通して示すことができればと思う³。

ヘブル語で「肉」を意味する語 *bāšār* は、旧約聖書に 270 回登場し、うち 138 回がモーセ五書に出てくる。*bāšār* は、人間の肉、動物の肉、体全体、体の一部、生け贄、食用の肉、人間あるいは動物そのものを指すが、神を指して用いられることは一度もない。*bāšār* の用法を概観すると、価値中立的であると思われる場合を除いて、その用例の多くが負の意味を表しているようにみえる⁴。また、単に人間や動物の物質的側面を指すだけでなく、それを越えた何

¹ ロマ 7:5, 25; 13:14; ガラ 5:19; エペ 2:2-3; I ヨハ 2:16; II ペテ 2:10

² ヨハ 3:6; 6:63; ガラ 5:16-17; 6:8

³ 本小論は、拙論 *The Symbolic Meaning of the Flesh in the Pentateuch* (東京基督教大学大学院修士論文、2015 年) の内容を要約し、修正を加えたものである。

⁴ *bāšār* が明らかに肯定的な意味で用いられている唯一の例は、エゼキエル書に登場する「肉の心」(*lēb bāšār*) という表現である (エゼ 11:19; 36:26)。ただし、この場合の「肉」は、象徴ではなくメタファーであると思われる (メタファーの定義については、下記を参照のこと)。

らかの「象徴的な」意味を有する場合があると思われる。本小論では、bāsār のこの象徴的意味の考察を目的として、以下の手順に従って論を進めることとする。まず、旧約聖書における「象徴」を定義し、その解釈のための試論を提示する。次に、この試論に従って、モーセ五書において bāsār が象徴的に用いられていると思われる 3 つの箇所（創世記 2-3 章、創世記 6-9 章、レビ記 11-15 章⁵）を取り上げる。最後に、これらの箇所から得られた情報を元に、bāsār の象徴的意味及びその神学的意義を考えることとする。

I. 旧約聖書における象徴

A. 関連する用語の整理

「象徴 (symbol)」という語は多様な意味で用いられているため、その使用には慎重を要する。例えば、Paul A. Kruger は、旧約聖書における象徴を他宗教のそれと区別することなく、“a symbol somehow connects two entities, viz., the object and its effect” と述べているが⁶、この定義には、メタファーや、聖書において「しるし (’ôṭ)」と表現される事象も含まれている。他方、A. Berkeley Mickelsen は、象徴とメタファーとを区別しつつも、しるしを象徴の一種と位置づけている⁷。このように、聖書における「象徴」は、「その見かけ以上の何か」を意味する現象であるという点においては学者たちの間に同意があるものの、その他の側面については一致がみられない。そこで本章では、メタファーやしるしとは区別され得るもので、旧約聖書内に認めることができる事象としての「象徴」について考える。

⁵ これ以外に、五書において bāsār が人について用いられている用例は以下の通りである：割礼における包皮の肉（創 17 章）、肉親（創 29:14; 37:27; レビ 18:6; 25:49）、体の一部としての肉（創 40:19; 出 4:7; レビ 26:29; 申 28:53, 55; 32:42）、体（出 30:32; レビ 6:10; 19:28; 21:5; 22:6; 民 8:7; 12:12; 19:7, 8）、「すべての肉（生きもの？）」（民 18:15; 27:16; 申 5:26）。

⁶ Paul A. Kruger, “Sign and Symbol,” ed. W.A. VanGemeren in *The New International Dictionary of Old Testament Theology & Exegesis*, vol. 4 (Grand Rapids: Zondervan, 1996), 1224.

⁷ A. Berkeley Mickelsen, *Interpreting the Bible* (Grand Rapids, Michigan: William B. Eerdmans Publishing Company, 1963), 265.

旧約聖書における象徴を、仮に「字義通りの意味と字義通りでない意味⁸とを併せ持つ現象」と仮定した場合、メタファーやしるしとの区別が問題となる。I. A. Richards は、メタファーにおける字義通りの意味を vehicle、字義通りでない意味を tenor と呼んだ⁹。例えば、詩篇記者が「主」を「岩」と呼ぶ場合、「主」が tenor で、「岩」が vehicle となる。vehicle と tenor は、メタファーの研究において使われる用語ではあるが、本小論では便宜的に、しるしや象徴の解説にも用いることとする。以下に示すように、メタファー、しるし、そして象徴における vehicle と tenor の関係を考察することは、これら三者を区別する上で有益である。

メタファー

メタファーは、vehicle と tenor の比較を通して、後者の理解を深めるための言語表現である¹⁰。ただし、比較される両者の対応づけは部分的であり、すべての要素が互いに対応づけられるわけではない¹¹。例えば、「主は私の羊飼いの」（詩 23:1a）という比喩表現における「主」(tenor) と「羊飼いの」(vehicle) は、すべての要素において互いに対応づけられているわけではない。むしろ、聞き手（読者）は、この両者の間で対応づけられている要素、すなわち、「群れを導く」もしくは「養う」という共通点に注意を向け、「羊飼いの」を通して「主」を理解するよう促される。以上のことから、メタファーは、聞き手の理解を促すための比較表現であるといえる。

メタファーにおける vehicle と tenor の関係はまた、文脈に応じて変化する。

⁸ もちろん、何が「字義通り」で、何が「字義通りでない」かを厳密に区別することは難しいが、本小論ではこれらの用語を相対的な意味で用いることとする。

⁹ Mordechai Z. Cohen, *Three Approaches to Biblical Metaphor: From Abraham Ibn Ezra and Maimonides to David Kimhi* (Leiden: Brill, 2003), 19.

¹⁰ G. B. Caird, *The Language and Imagery of the Bible* (Philadelphia: The Westminster Press, 1980), 144-145; Anne Moore, *Moving Beyond Symbol and Myth: Understanding the Kingship of God of the Hebrew Bible Through Metaphor* (New York & Washington: Peter Lang Publishing, 2009), 39-42 参照。

¹¹ 坂原茂「認知的アプローチ」『岩波講座 言語の科学 4 意味』、1998 年、105 頁